

コミュニチュアグループのCSR活動

株式会社コミュニチュア

1. はじめに

高度情報通信ネットワーク社会の形成が進むにつれ、エンジニアリング会社に対するお客様や社会の期待は大きく変化しつつあります。この変化を的確に捉え期待に応えるべく、当社グループは2010年10月に大明株式会社、株式会社東電通とともに共同持株会社「株式会社ミライト・ホールディングス」を設立し、その傘下に入りました。

経営統合以前から情報通信エンジニアリング企業として積極的にCSR活動に取り組んできましたが、ミライト・ホールディングスでは経営の基本理念に「企業の社会的責任を果たし、常に人間を尊重する企業として、人や社会と共存共栄する企業であり続けます」と謳い、その姿勢をより明確にしました。

当社では2011年にCSRレポートを発行しその取組みを公表していま

すが、本年3月にはミライト・ホールディングスとしてグループ3社（大明、東電通、コミュニチュア）の取組み報告をまとめたCSR報告書を発行しております（図1）。

以下では、ステークホルダー、環境に対しての取組みという観点から、コミュニチュアグループを中心に一部ミライトグループとしてのCSR活動を紹介します。

2. お客様への取組み

●安全・品質の向上

お客様から信頼・満足をいただくために品質保証センタを設立し、施工品質の向上に取り組んでいます。同センタでは、設備記録写真管理システム（スマートシステム）を活用し、リアルタイムな安全・品質指導による施工品質の向上、品質検査の効率化、標準化を実現しています（図2）。

●安全大会・KAIZEN大会の開催

2011年7月7日に東日本、7月14日に西日本にて大明、東電通とともに3社合同の「ミライトグループ安全大会」を開催し、さらに10月26日には、「ミライトグループKAIZEN大会」を開催しました。今まで各社で行っていた独自の取組みをミライトグループのノウハウとなるように紹介し合い、また「安全と品質を大切に、最高のサービスを提供することによって豊かで快適な社会の実現に寄与します」というミライトグループの経営の基本理念に基づき、今後はグループ一体となって、エンジニアリング会社の生命線である「安全・品質」の向上をもってミライトグループの新たな価値、ブランドを構築していくことを共有しました（写真1）。



ミライトグループCSR報告書2012
<http://www.mirait.co.jp/>



コミュニチュアCSR REPORT2011
<http://www.commuture.com/>

図1 CSR報告書

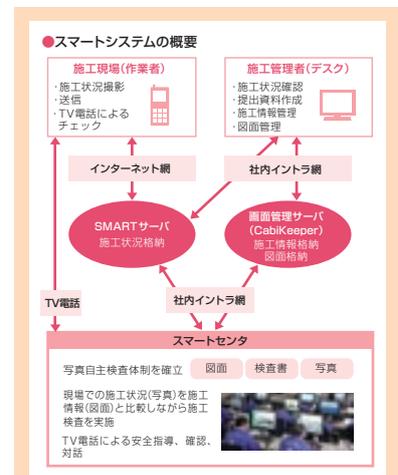


図2 スマートシステムの概要



写真1 ミライトグループ安全大会

●CS活動 (CS向上プロジェクト)

全てのお客様からのご要望にお応えし、高い品質とサービスを提供できる集団を目指すために『CS向上プロジェクト』を編成して、CS向上リーダーの育成に取り組んでいます。そして、CS向上リーダーはグループ社内に施策をしっかりと根付かせ、積極的に水平展開していく役割を担っています (写真2)。

●情報セキュリティ

お客様情報 (個人・企業) を保護するため、ネットワーク監視ソフトを導入し社内ネットワーク上のすべての端末を監視・管理することにより、内部からの情報流出や外部からの攻撃の対策を行い、高度なセキュリティを保っています。また、社長を委員長とした情報セキュリティ委員会を月1回開催し、問題対策、予防、施策の実施状況などを審議し、当社だけでなくお客様のシステムやデータ等の情報資産をあらゆる脅威

から保護し、情報セキュリティの継続的な維持、改善に努めています。

3. 協力会社への取組み

●技能成果発表会

2011年8月21日、当社の兵庫東技術センターにて協力会社の施工技術者による技能成果発表会を開催しました (写真3)。西日本の11技術センターでは、毎月月例のミニ競技会を実施し技能向上を図っており、成果発表会は各技術センターから月例競技会の優秀者を選出し、一堂に会して実施したものです。競技種目は、光アクセス架空設備施工競技と宅内設備施工競技の2種目で総勢24名の代表が参加しました。こういった取組みは技能の向上はもちろん、普段なかなか交流のない選手が集うことによって、各技術センター間のヒューマンネットワークが構築され、全体の現場力向上につながっています。東日本は現在震災復興支援に取り組んでおり、同時開催はできませんでしたが、技能向上の近道は日常の地道な積み重ねが全てであるという考えから、今年からは、全技術センターに展開することを計画しています。

●情報連絡会の開催

協力会社との信頼関係の構築、経営環境や課題等の共有、施工技術者

の育成、安全・品質・CSへの取組み、当社グループへの期待・要望などについて定期的 (四半期単位) に情報連絡会を開催しています。情報連絡会では、当社の作業に従事していただいている協力会社社長様と当社経営幹部との意見交換を行い、より一層のコミュニケーションを図ることにより協力会社様を含めたグループ全体の現場力向上に努めています (写真4)。

4. 従業員への取組み

●階層・資質別教育、技術専門教育

人材育成にあたり経営管理者が経営資源である人を育て、戦力化し、業績を上げる使命をもつとともに、社員自ら成長するという意識、行動が基軸にあることを基本にしています。教育研修制度としては、新入社員から経営幹部にかけての階層別・



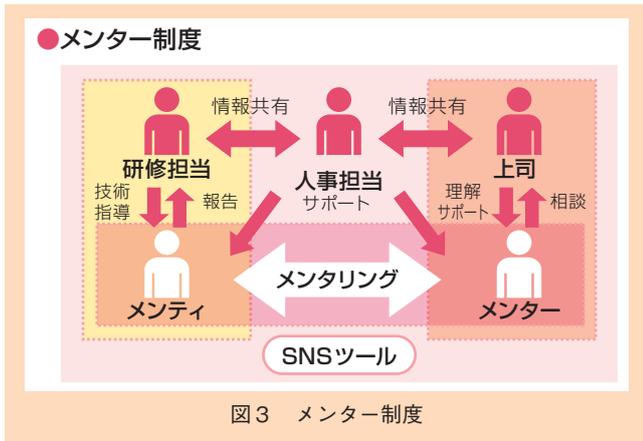
写真2 CS向上活動



写真3 技能成果発表会



写真4 情報連絡会



資質別に求められるマネジメント能力などの習得させる研修と技術・技能の習得といった専門領域の能力を高める研修体系を持っています。

●メンター制度の導入

従業員を側面的に支援する「メンター制度」を導入し、知識・技術の指導だけではなく公私にわたり身近な助言・指導を行い、環境への適応力を高めて「人財」としての成長を促進しています。メンターとなる従業員に対しても適切な指導を行うための研修を実施することにより、後輩、部下への育成力や指導力等のマネジメントを学ぶことができる相乗プログラムとして効果を上げています (図3)。

●高齢者雇用継続の実施

高い就労意欲を有する高齢者が知識・経験を活かし、社会の支え手として活躍し続け、年金支給開始年齢まで意欲と能力のある限り働き続けることができる制度として、ネクストステージプラン制度を導入し、一定の基準を満たした社員を本人の希望に応じて定年後 (60歳) に再雇用しています。また、仕事、人生の節目を迎えるにあたり、定年退職後のライフプランや資産運用や健康管理についてのセミナーを実施し、人生のネクストステージに向かってあるべき仕事への取組み姿勢を確認す

るとともに、退職金、年金、健康管理等の基礎知識を身につけ、スムーズな移行とより充実した生涯生活設計の実現を支援しています。

●キャリアチェンジ・ステップアップ制度

当社では、さまざまな雇用形態の従業員が一体となり事業を推進しています。グループ全体での人材の育成・確保に力を注いでおり、働きやすい職場環境づくりや従業員満足度を高める取組みとして、派遣社員、短期間雇用者、グループ会社社員等を社員登用する制度を導入しています。

●社長ブログ「日々通心」

従業員と経営トップとの双方向のコミュニケーションを図るため、社長自らが社内システムを利用したブログを開設しています。毎週更新され、従業員にとっては会社の状況や方針、経営トップの考えや人柄をダイレクトに知るための貴重な情報源となっています。また、経営トップにとっては従業員からのコメントや意見により最前線の現場からの情報を得る機会となり、大いに活用されています。

ブログ名の「通心」には、当社の主たる事業である「通信」とかけて、このブログが従業員と「心の通じる場」になってほしいとの願いが

込められています (図4)。

5. 地域社会への取組み

●地元に着目した社会貢献活動

・2003年から約8年間、目黒川河畔遊歩道周辺の清掃活動「目黒川クリーンアップ大作戦」(主催:目黒川を豊かな生活環境にする会)に参加してきました。東京本社移転に伴い2011年をもって活動参加を終了しましたが、今後は移転先の豊洲周辺での新たな活動を計画しております (写真5)。

・大宮技術センターでは、毎年4月初旬に敷地内にある3本の桜の開花に合わせてお花見を開催しています。毎日朝早くから夜遅くまで仕事をしている当センターは、ご近所の皆様のご理解とご協力がなければ1日として稼働することができません。このお花見では日頃の感謝の気持ちを込めて、ご近所の皆様や子供たち、社員の家族を招き、交流を深めています (写真6)。

●災害復旧対応

地震や津波、台風などの大規模災害が発生した際には、通信網の速やかな復旧のため迅速に対応できる体制やマニュアルを整えています。

東日本大震災では、地震発生直



写真5 目黒川クリーンアップ大作戦



写真6 大宮技術センターでのお花見

後、災害対策本部を立ち上げ、通信事業者様からの要請に基づき、翌日より特設公衆電話の設置や固定通信設備、移動体通信基地局等の通信設備の修理・修復に向けた、さまざまな復旧支援活動を行いました。

また、和歌山・奈良方面に大きな被害をもたらした平成23年9月の台風12号による記録的豪雨では、災害発生後、現地に支援班を派遣し通信設備の応急復旧にあたりました。

東日本大震災への取り組みでは、2012年3月に改めて東北復興推進プロジェクトを立ち上げ、継続的な復興支援を推進していきます。(図5、写真7・8)

6. 環境への取り組み

●技術センターへの太陽光発電設備の導入

2010年8月に完成した兵庫東技術センター(兵庫県東灘区)に太陽光発電・緑化・省エネといった設備を導入し、以後建設する技術センターにも同設備を導入することとしました。本年2月に竣工した大阪技術センター(大阪府松原市)と京都技術センター(京都府南区)にも太陽光発電

システム等を導入し、地球規模で深刻化する環境問題に取り組んでいます。

また、各センターのエントランスに発電量表示パネルをつけることにより従業員の環境意識向上にもつなげています(図6、写真9・10・11)。

●産業廃棄物の削減

産業廃棄物削減の取り組みとして、工事用材料の段ボール削減、梱包資

材の見直し、ケーブルドラムの再利用の推進などの取り組みを取引先業者と共同で取り組んでいます(図7)。

●緑化推進活動

コミュニチュア緑の会では、緑化推進活動として年2回、各部門・協力会社に参加者を募り、(財)大阪みどりのトラスト協会の里山保全活動にボランティア参加しています(写真12)。直近の活動では大阪府和泉佐野市のいずみの森で枯れてしまった

図5 大規模災害復旧支援の歴史(過去20年)

年	災害	概要
1995	阪神・淡路大震災	約13万回線の電話回線不通に対し、9日間で仮復旧を実施。その後も全面復興に向けた活動を推進。
2000	三宅島噴火	2000年の大噴火による全島避難の4年後、避難指示解除に先立ち現地通信設備の復旧を実施。
2004	奈良県大塔村	台風による大規模な土砂崩れによって寸断された通信設備を205名による人海戦術により、わずか35時間で復旧を実施。
2007	新潟県中越沖地震	北関東を拠点とするグループ会社を中心として災害復旧支援活動を展開。



写真7 東日本大震災での復旧作業



写真8 台風12号による災害での復旧作業

図6 各技術センターの発電量

	兵庫東技術センター	大阪技術センター	京都技術センター
太陽電池容量	180kwh	190kwh	190kwh
パネル枚数	168枚	260枚	156枚
年間発電量	29,200kwh	47,700kwh	26,400kwh



写真9 京都技術センター



写真10 兵庫東技術センター

※兵庫東技術センターでは、社屋屋上、駐車場、道路隣接部分に合計1,439㎡の緑化設備を導入しています。



写真11 電力量表示パネル

松の木の伐採や間伐・伐採材を活用した薪作り、下草刈などを行いました。

7. おわりに

以上、コミュニティアグループが取り組んでいるCSR活動について、紹介させていただきました。私たちはこれまでコミュニティアグループとして取り組んできましたが、今後はミライトグループが掲げる「総合エンジニアリング&サービス会社」として、お客様から最高の満足と信頼を得られる企業を目指すことにより、社会の持続可能な発展に寄与していきたいと考えています。

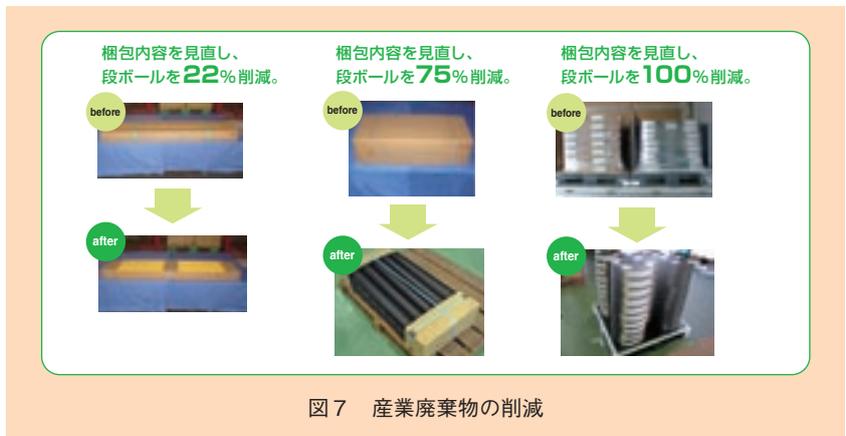


図7 産業廃棄物の削減



写真12 コミュニティア緑の会